

北地区で「地域防災訓練」

例年、網走市をはじめとする関係機関と地域との共同により実施されている地域防災訓練が、11月3日(日)に北連合町内会地区で実施されました。

今回の防災訓練は関係者を含め約150名が参加し、オホーツク海を震源とする地震により沿岸地域に津波警報が発表されたという想定で実施され、地域住民は一旦避難目標地点である看護学校とエコーセンターに避難したあと、避難所の中央小学校へ避難しました。

避難所では町内会長や市による情報伝達訓練や消防署・団員による応急救護訓練などが実施され、災害や非常時の個人や地域の対応を学びました。



.....沿岸地域の津波警報を想定

地域のちから

津波避難対象地域の災害時 要援護者へ防災グッズを配布

昨年10月、網走市地域福祉会議の構成機関・団体が進める「防災福祉の地域づくり推進運動」の一環として、網走市の「災害時要援護者台帳」に登録されている方のうち、市が昨年2月に策定した「津波避難計画(全体計画)」の中で「避難対象地域」として指定された11地域に住む208名の方々に、地域の民生委員と町内会員が防災グッズを配布して災害や非常時への備えを呼びかけました。



災害や非常時には自分で自分の身を守る「自助」が基本となりますが、高齢や障がいなどにより「自助」の力が低い災害時要援護者には、地域住民の助け合いである「共助」の力が重要になります。

この事業では、災害時要援護者の方々へ出来るだけ自ら備えをして頂くよう呼びかけたほか、地域住民の助け合いの関係づくりをねらいとして実施しました。

